

～使命の実現～

2015年10月10日発行 10月号 No. 248

◇「全国事業者大会をロジ研目線にてご報告」

副本部長・広報委員長 山田 正信
 〔足立支部 (株) 森田商運〕

日頃より<ひびき>をご愛読していただき誠に有難うございます。発行人を務めさせて頂いているロジ研広報委員長の山田です。今回は10月1日に石川県金沢で開催されました全国事業者大会の様子をロジ研目線でお知らせいたします。

大会の詳細は広報トラック、トラック時報や業界紙にて皆さんご存知の事だと思います。私が感じたところでは全国や関東ブロックに比べ東京都トラック協会の若手参加者が多かったように思います。実際、ロジ研在籍の支部長の参加が多く、その他のロジ研会員も数多く参加していました。これは今年の4月から東ト協が実施した支部公認化(東京方式)により、各支部が活性化されてきたことの表れだと感じました。

また、大会や懇親会の合間に全国の参加者から「どうやれば支部が公認されるの?」「やりかたは?」など、青年部員時のつながりであろう参加者より、元全国青年代表の支部長の方達に質問している様子を何度となく見かけました。この事から東京方式の支部公認化が全国に、いかに興味を持たれているのかを実感いたしました。全国とはいえ各県協会ごとにさまざまな問題や課題が有る事も聞く事が出来た事と、今回の大会は北陸新幹線開通に合わせて金沢で開催された為、参加者の皆さんが私を含めて東の間の北陸を味わう事が出来た事をご報告いたします。

余談と成りますが、ロジ研には大高会長からも色々な課題の研究や各委員会への参加のご下命を頂いており、<ひびき>の紙面ではその取り組みやその成果を発表するべく、ロジ研広報委員会は努力してまいります。さらに皆さんからのご意見や支部の活動状況等も匿名を含めて投稿をお待ちしておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

◇「水素をめぐる現状と将来動向について」

副本部長・物流政策委員長 大島 弥一
 〔新宿支部 大島運輸(株)〕

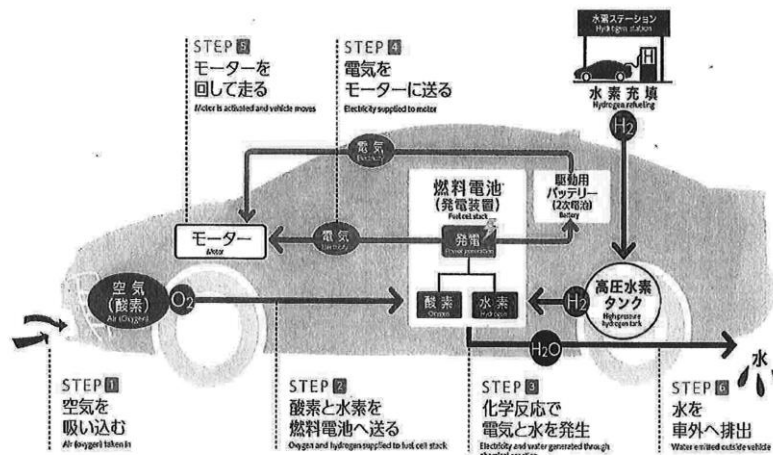
9月14日、自動車会議所の会員研修会に参加して『水素』の動向について話を聞いてきました。講演では①燃料電池車(FCV)の開発と初期市場の創出についてトヨタ自動車の技術統括部より、②水素・インフラに関する現状と将来の展望について岩谷産業の常務執行役員より、③来たるべき水素社会の展望についてのパネルディスカッションの構成でした。

トヨタの水素自動車「MIRAI」は月間400台程度の生産で現在納期1年待ちだそうで、話題性もあり予想を超える発注を頂いているそうです。後はインフラがどこまで整備されるかとのことですが、岩谷産業の話では製造拠点は千葉、大阪、山口と3か所で、液化すると1/800になるので大量輸送が可能であり、水素ステーションも現在首都圏で36か所、芝公園では「MIRAI」のショールームを併設、来年1月オープンの大田区池上ではコンビニと併設し、今後も利便性の向上を重視して整備していくとのことでした。講演を聞いた限りでは将来的なCO₂削減目標の達成のためには、電気自動車(EV)とFCVの更なる普及が欠かせないとのことであり、近距離はEV、中距離はFCVのような棲み分けで宅配トラックや路線バスまで拡大するイメージを持っているとのことでした。トラックの生産開始まではまだ話はありませんでしたが、「MIRAI」も満タンで700キロ程度は走れるそうなので、是非皆さんも社用車で一台いかががでしょうか?内装もお値段なり的高级らしいですよ(;^_^A

<セミナー、TOYOTA 当日資料より>

FCV「MIRAI」動作原理

30



Rewarded with a smile

TOYOTA



Rewarded with a smile

TOYOTA



〔全国事業者大会〕

◇「ロジスティクス研究会 本部連絡会」

副本部長・本部連絡副委員長 田中 敏之
〔千代田支部長 新聞輸送(株)〕



〔志村 副会長〕

9月17日、東京都トラック総合会館4階会議室において本部連絡会が開催されました。

本部連絡会はロジ研と本部執行部との情報交換が目的で、今回は志村正之副会長を囲んで色々とお話しをお聴きしました。

宮本隆本部連絡委員長の司会で開会、松本有司本部長の挨拶、

出席者全員の自己紹介、そして志村正之副会長の略歴紹介の後に志村副会長よりお話し頂きました。

私は話すのが苦手だから私から質問するので、と言う話がありましたが、「若いころには海外に行ったりとか、皆ももっと外を見なきゃだめ」とアドバイスをいただいたり、「ここにいるメンバーが頑張ってる上に来なくては駄目だ」とお言葉を頂きました。話が苦手だと言われながら時間が来てしまい続きは場所を変えて・・・。

お口元も緩み内容は参加した方のみが知ると言うことで。

お話が聞きたい方は是非ご参加ください。

◇「ロジ研第1回オープンセミナーを聴いて」

副本部長・研修副委員長 西野 毅
〔城東支部 (株) 誠和〕

今回のセミナータイトル「長時間労働に対応した賃金の仕組み」その冒頭、講師の瀧澤先生より、我々運送事業者が長時間労働(拘束)の1つの元凶は荷待ち時間であり、具体例として大手スーパーへの納品待ちは恒常的に4~5時間掛かっている例もあるそうです。

私の会社でも倉庫から荷を引取るのに平均して1時間は待たされる所が現実であり、荷待料金を認めて頂いている荷主様には請求をさせて頂いております。しかし其の非生産的費用は最終的に誰が精算しているのか。

結論としては製品売価に転嫁するか生産コスト全体の中の"何処か"で吸収するほか無いはずです。

現状では、その"何処か"では直接携わる我々運送業者に当たり前の様に向けられているのが実態であり、これを改善する為に国交省の音頭で荷主も交えた会議が行われているのも事実ですが、少しでも改善に向けての進展の話が未だ私自身が耳にした記憶はありません。

こんな状況下、一方で2019年には超過勤務手当の割増算定が改正され人件費増が決定した事に、事業主としてどの様に対応するかの本題の話に入り、前半45分を終え休憩時間の事でしたが、誰かが「もう運送屋を辞めた方が良いよ」

と言う言葉が耳に入って来ました。周りに居た人達は厳しい表情で苦笑いを浮かべ、その一言に同調している様には映りました。

この日のセミナーを聴きに來ている面々を見ると、各社Gマークやグリーン経営認証を取得している経営者が多く、この問題へも合法的に対応する為にはどの思いで参加したのだと思います。

しかし、最近の法改正に合法的に取組もうとすればするほど経営環境は疲弊して行く、商売にも攻守が有ると思います。運送事業者の「攻」は適正運賃の収受、「守」は法令順守ではないかと私は考えています。

疲弊と言えば昨日のニュースでTPPが大筋合意した事に伴い、安倍総理は影響の出る畜産業者に所得補償を行うそうですが、ならば疲弊して行く運送事業者にもお金を下さいとは個人的には思いません。一時的な補償を得たとしても根本的な解決にはならないと考えているからです。

それよりも荷主団体が真面目な事業者を選ばなければならない様な仕組みやルール作りについて本腰を入れて考えてもらい、今日、セミナーに参加した経営者を筆頭に真面目に事業を継続させようと考えている大半のトラック協会会員、零細事業者が多い運送業界で、ドライバー不足に端を発し経営者までもがこの業界に魅力を感じず離れて行く事は、食の確保と同等の問題として物流需要に対し安定供給出来る人材の確保を国策として位置付け、所管省庁に対し一運送事業者の小さな声だが、改めてこの本気さが伝わればとセミナーの終了する所沸々と感じた事をこの機に書かせて頂きました。



〔セミナー会場内〕



〔交流会乾杯〕

◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

10/21(水) 16:00~三組織連絡会(東ト総合会館6中)

10/27(火) 15:30~経営者実務セミナー(東ト総合会館4階)

○11/ 9(月) 16:00~正副本部長会議(東ト総合会館6中)

○11/14(土)~15(日) 温故創新セミナー・国内視察(滋賀)

○12/ 7(月) 17:30~正副幹事会合同会議

(小田急行ビルチェリーホール 21F)

○ " 18:00~ロジ研忘年会(同所)

○12/18(金) 17:00~本部連絡会 江森副会長(東ト総合会館6中)